専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	
体育学部	講師	徳田　真彦		無

Ⅰ　教育活動

教育実践上の主な業績	年月日（期間）	概　　要
1　教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
アクティブラーニングを取り入れた授業展開	2016年4月－現在	・一斉授業とグループワークを盛り込んだ展開 座学においては、一斉授業の中に必ずワークを取り入れ、複数人でワークに取り組み、黒板を使っての発表といった、成果を発表するというような授業展開を行っている。黒板に記載した際には、学生同士質疑応答を行う場合もある。 ・協力して行うグループワークを取り入れる レクリエーションイベントの「企画書を作成する」といった課題を設定し、開催地域の決定、地域の課題探索、イベントの内容、評価方法に至るまで、企画書作成に係る一連の流れをグループワークとして取り組んでいる。企画書の提出・修正および企画内容のプレゼンテーションなどを実践している。 ・実践とフィードバック 実技・演習の科目においては、座学だけではなく実際に学んだ理論や知識を生かし、実践を行うようにしている。座学だけでは理解しきれなかったことも、実体験をすることで学習効果が更に高めるようにしている。また、その際にはただ実践をして終わるのではなく、学生相互のフィードバックを実施し、実践者と参加者相互で学びあえる環境を作ることを意識している。
授業改善アンケート調査	2016-2021年	大学で実施している授業改善アンケート調査において、内容理解、授業計画、評価方法、熱意、教授法、コミュニケーション、準備、話し方、資料の明瞭さ、勉学環境、満足度などの項目において、すべて学内平均を上回り、高い評価を得ている(調査が行えた担当科目全て)。
2　作成した教科書、教材、参考書		
「雪を楽しむ外遊びプログラムスノーゲーム・楽しく安全に遊ぶためのハンドブック」	2018年2月	学校の先生や地域の指導者向けの指導ハンドブック。「スノーゲーム」の中から、グラウンドや広場で手軽にできる運動系アクティビティと共感系アクティビティを選び、それぞれの活動内容や条件、指導ポイントを照会している。本書では、全体構成および、スノーゲームのアクティビティ選択、ルール内容の記載を担当した。
3　教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4　その他教育活動上特記すべき事項		
グループエンカウンター、体験授業等		グループエンカウンター,北海道札幌東稜高等学校、体験授業,ASEプログラムの実践,名寄東中学校、札幌市夏季林間学校,札幌市教育委員会,滝野自然学園、 体験授業,ASEプログラムの実践,大曲中学校、体験授業,ASEプログラムの実践, 山鼻中学校、出張講義,ASEプログラムの実践, 礼文高等学校、出張講義,ASEプログラムの実践, 月形高等学校、高校生のための学びの体験セミナー 「チーム力を育てるチームビルディング」、高大連携事業-恵庭南高校「チーム力を育てるチームビルディング」

Ⅱ　研究活動

著書（単著）

書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月

著書（共著・分担執筆）

題目／書名	著者／編者	初（始）頁～終頁	発行所	発行地	発行年月
「雪を楽しむ外遊びプログラムスノーゲーム・楽しく安全に遊ぶためのハンドブック」	著者：青木康太朗、徳田真彦、吉田昌弘、吉田真、竹田唯史	分担部分：抽出不可	北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター	北海道	2018年2月

原著論文（審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。）

題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
「スノーゲームの身体的・心理的効果に関する研究Ⅱ－小学生を対象とした調査の結果から」	徳田真彦、吉田昌弘、青木康太朗、竹田唯史、吉田真	北方圏生涯スポーツ研究センター年報	第8号	pp1-10	2018年3月
「大学運動部に対するASEプログラムが集団凝集性に及ぼす影響－新入生と在学生の比較から－」	徳田真彦、伊原久美子、加藤祐一、髙橋宏斗、久田竜平、他2名	キャンプ研究	第21巻	pp15-29	2018年2月
「自然体験活動が大学生の社会人基礎力に及ぼす影響」	徳田真彦、粥川道子、安原政志、佐藤悦子	北翔大学生涯スポーツ学部紀要	8	pp127-139	2017年3月
「スノーゲームの身体的・心理的効果に関する研究Ⅰ～大学生を対象とした予備実験を通じた検討～」	青木康太朗、吉田昌弘、徳田真彦、竹田唯史、吉田真	北方圏生涯スポーツ研究センター年報	第7号	pp1-10	2017年3月
「小中学生を対象としたキャンプ活動が生きる力に及ぼす影響-性別、学校段階、キャンプ満足度に着目して-」	徳田真彦、伊原久美子、飯田輝、久田竜平、髙橋宏斗、土屋裕睦	大阪体育学研究	第54巻	pp1-18	2016年3月
「登山のストレッサーが大学性のストレスコーピングに及ぼす影響」	髙橋宏斗、伊原久美子、福田芳則、池島明子、徳田真彦	大阪体育大学紀要	第47巻	pp153-165	2016年2月

総説

題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月

その他　（「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入）

区分	題名	著者		誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
実践報告	コロナ禍における海洋スポーツキャンプ実習実施への取り組み	共	徳田，真彦，久田，竜平，伊原，久美子，藤本，淳也，冨山，浩三，中山，健，徳山，友	大阪体育大学紀要	52	79-95	2021年3月
実践報告	コロナ禍における大学野外活動実習の実践報告～大阪体育大学の取り組み～	共	徳田真彦，伊原久美子，冨山浩三	キャンプ研究	24	47-54	2021年3月
実践報告	「The 2nd Asia-Pacific Conference on Coaching Science(APCOCS)への参加報告」	共	徳田真彦、廣田修平、青木康太朗、石井由依、大村美貴、他2名	北翔大学生涯スポーツ学部紀要	8	pp241-264	2017年3月
実践報告	「教育養成課程における野外教育の試み～札幌市林間学校実習の実践報告～」	共	粥川道子、徳田真彦、安原政志、佐藤悦子	北翔大学生涯スポーツ学部紀要	8	pp117-126	2017年3月
実践報告	『長期キャンプの意義を改めて考える-「チャレンジキャンプ2015～リヤカーで小豆島一周110kmの旅～」の事例から-』	共	徳田真彦、伊原久美子、久田竜平、髙橋宏斗、飯田輝	キャンプ研究	第19巻	pp45-53	2016年2月
実践報告	「自然体験がキャンプ指導者の野外指導スキルに及ぼす効果」	共	徳田真彦、清水一毅、三浦浩樹、三浦壮一郎、大杉夏葉、他3名	キャンプ研究	第18巻	pp47-52	2015年2月

学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等」、「研究会」等区分を記入）

区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名
国内(一般演題)	2021年11月	日本野外教育学会24回大会	自然学校と連携した研究プロジェクト～実践と研究の融合を目指して～	明治大学	徳田真彦
国内(一般演題)	2020年11月	日本野外教育学会23回大会	コロナ禍における大学野外実習の実施へ向けた取り組みー 大阪体育大学の事例ー	関西学院大学	徳田真彦
国内(一般演題)	2019年6月	日本野外教育学会第22回大会	大学野外実習における社会人基礎力の育成要因の検討Ⅱ	仙台大学	徳田真彦
国内(一般演題)	2018年6月	日本野外教育学会第21回大会	大学野外実習における社会人基礎力の育成要因の検討 ー全国10大学の調査結果からー	信州大学	徳田真彦
国内(一般演題)	2017年6月	日本野外教育学会第20回大会	スノーゲームの身体活動量に関する研究	国立オリンピックセンター	徳田真彦
国際	2016年10月	第6回アジア・オセアニアキャンプ会議	The effect of Educational camps in College students ーFocusing on the Camp Experiences ー	国立オリンピックセンター	徳田真彦
国内(一般演題)	2016年6月	日本野外教育学会第19回大会	キャンプ活動が生きる力に及ぼす影響ー 性別、学校段階、キャンプ満足度に着目して ー	国立中央青少年自然の家	徳田真彦
国内(一般演題)	2015年6月	日本野外教育学会第18回大会	教育キャンプにおける社会人基礎力の変容 -継続参加と参加学年に着目して-	国立阿蘇青少年自然の家	徳田真彦

科学研究費等の取得状況

科学研究費／その他の助成金／外部資金

区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額（期間内の総額）
科学研究費	基盤研究C	高等教育におけるジェネリック･スキルを高める野外教育プログラムの実践	分担	2019～2022	3,770,000

特許

特許名称	発明者／出願人	出願日／出願番号	公開番号	取得した場合⇒	公告・特許番号	国

Ⅲ　加入学会および社会における活動

期　　間	内　　容
加入学会	
2018年－2020年	日本福祉文化学会理事
2012年～現在	日本野外教育学会
2012年～現在	日本体育学会
2014年～現在	生涯スポーツ学会
社会的活動	
2019年－2021年6月	Wilderness Education Association Japan 代表理事
2016年－2019年	北海道アウトドアフォーラム実行委員
2016年－2019年	北海道キャンプ協会広報委員
2018年－2019年	札幌市青少年山の家運営協議会委員

Ⅳ　管理活動

期　　間	内　　容
委員会活動	
2019年－現在	ＦＤ委員会
特別プロジェクト活動	

Ⅴ　クラブ活動の指導業績

１．指導クラブ名	野外活動　　部	２．役職	2019年～現在	３．部員数	20　人

４．現場指導の頻度	①	① ほほ毎日　② 週３日　③ 週１日　④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導　⑤ 全く関与していない

５．合宿指導	年間合宿回数：　10　回	延べ日数：　30　日	

６．クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない
７．クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない
８．部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる　②ある程度取組んでいる　③あまり取組んでいない　④全く取組んでいない

９．年間の引率公式大会名	大　会　名	期　　間	場　　所

１０．クラブ戦績　（全日本選手権８位以上、関西選手権４位以上、関西１部リーグ３位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開　催　期　間	大　会　名	成　　績	場　　所

Ⅵ　賞罰（職務に関する賞罰）

年　　月	受賞等機関名	内　　容	備　　考
2019年3月	Japan Outdoor Leaders Award	Japan Outdoor Leaders Award U-30賞	
2017年3月	大阪体育学会	平成28年度大阪体育学会学会賞	
2016年6月	日本キャンプ協会	Camp Meeting in Japan 2016 The Second Most Impressive Presentation	